

令和6年度 学校経営報告書

八王子市立美山小学校  
校長 加藤 毅

I 今年度の取組と自己評価

評価基準：【A】十分達成できた【B】概ね達成できた【C】あまり達成できなかった【D】達成できなかった

	今年度の取組	自己評価	
1 学力の向上 (今年度の重点目標)	・「主体的・対話的で深い学び」の実現について	・校内研究で、国語と図画工作の研究授業を行った。特に図画工作における対話的活動は興味深い研究となった。各教員が日常の授業の中で対話的活動を取り入れるという意識を高めることにつながった。卒業生が中学校で話し合いの際に活躍しているという情報が入った。ここ数年間、対話的活動に力を入れてきたことが成果として表れていると思われる。今後も、児童の「話す・聞く」についての意欲や技能が高まるよう努めていく。	B
	・「短い時間を活用した教科等指導」と美山チャレンジタイムの活用について	・今年度から朝学習の時間を授業時数に位置付け、基礎学力を高める活動に取り組んだ。全校共通の取組として各学級で適切に実施できているか管理職が毎回確認に回った。短時間で集中して取り組むことで成果を上げている。今後も継続して取り組む必要がある。美山チャレンジタイムは学年の実態に応じて活用しているが、学力向上委員会を中心に改善していく余地がある。	B
	・教科横断的な学習活動の設定について	・学期に一度行う授業観察では、その授業を通してどのような教科横断的な資質・能力を育てたいかを指導案に明記して授業を実施した。教員の中で、育てたい資質・能力を意識して授業を行うことが少しずつ根付いてきている。これからも、全教員が、この授業でどんな力を付けるかを明確にして授業に取り組んでいく。	B
	・学習用端末を活用した情報の共有や調べ学習、発表活動等について	・社会科や総合的な学習の時間に調べたことを発表する際、学習用端末を活用した。高学年になるほど活用の機会を多く持つことができた。教員の学習用端末の活用能力に差があるため、学年だけでなく教員によって活用の頻度に差ができてしまった。OJTの機会を増やし、全校で学習用端末の有効活用を目指していく。	B

2 豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの未然防止及び早期発見や対応について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週火曜日の5校時終了後に学校いじめ対策委員会を行い、各学年の様子について情報共有を行った。また、児童同士のトラブルについて生活指導主任を中心に複数での聞き取りや保護者の方との面談を行うなど組織的な対応を行うことができた。これからも、全教員で全校児童を見守っていくことで、いじめの未然防止や早期解決につなげていく。</li> </ul>	A
	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な意見をもつ他者と議論し、考えを深める道徳の授業について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教材について、中心人物を自分に置き換え、課題について考えたり、友達と考えを比べたりする活動に取り組みさせた。対話的活動の有効性を道徳授業地区公開講座でも保護者の方々に感じていただくことができた。さらに考えを深められる手立てを探究していく。</li> </ul>	B
	<ul style="list-style-type: none"> <li>たてわり活動や行事などを通して人間関係形成力を高めることについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校遠足やわくわく班において、6年生を中心に充実したたてわり班活動を実施することができた。また、今年度は周年記念式典と音楽会を実施したが、特に高学年の児童が自分の役割をしっかりと自覚し、集団行動の意義や仕方を学ぶことができた。</li> </ul>	A
	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校及びその兆候がある児童への対応について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に他校で登校に困難さを抱えていた児童が本校に転入し、登校できるようになったケースが複数見られた。本校の少人数での指導や個への丁寧な指導が、不登校やその兆候のある児童にとって有効に働いたと考えられる。今後も個に応じた支援を丁寧に行っていく。</li> </ul>	A
3 健康・安全に関する意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の体力の向上について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持久走旬間やなわとび月間では全校児童が休み時間に一斉に体力向上に取り組んだ。また、今年度は全学年において体育専科による授業を設定することができ、これまで以上に工夫した取組を実践することで、児童の運動に対する関心を高めることができた。</li> </ul>	B
	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の安全な行動について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ事案への対応として、休み時間に教員だけでなく、学年補佐にも見守りをお願いした。それにより、児童の安全な行動についても、より多くの教職員が指導することにつながった。児童が基本的な生活習慣を身に付けることや、自己指導能力を高めることについては、今後も課題として継続した取組が必要である。</li> </ul>	B
	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアリテラシー教育の実践について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度についてはSNS利用上のトラブルなどは報告を受けていない。来年度は外部講師を招いて、児童にSMSの利用の仕方に特化した授業を実践する予定である。</li> </ul>	B

4 特色ある教育活動の推進	・小中一貫教育について	・知・徳・体にわたる育てたい児童・生徒像を各校で共有し、年間3回の小中一貫教育の日に合わせて情報交換を行った。今年度は新たに6年生が川口中学校の部活動を体験する取組を行った。6年生が中学校の雰囲気味わう機会が増え有効な取組であったと思う。中学校とのつながりをより意識した学習や生活の在り方については、更に課題の解決が必要である。	C
	・学習用端末の活用スキルの向上について	・1年生の生活科では、自分で動画を再生し、繰り返し工作の仕方を調べる姿が見られた。また、4年生の総合的な学習の時間では、インターネットで調べたことをプレゼンテーション形式で発表する姿が見られた。さらに、6年生は150周年の記念式典で、美山小学校の歴史をプレゼンテーション形式で発表することができた。各学年で学習用端末を活用する技能を高めることができたと言える。児童同士の情報の共有について、さらに技能を高められるよう、教員研修などに取り組む必要がある。	B
	・小小連携について	・上川口小学校との交流活動も3年が経過した。今年度は新たに5・6年生の移動教室を合同で実施した。それぞれ2～3日間、行動を共にすることにより、これまで以上に理解を深め、親しく接することができるようになった。他の学年についても、年々親しみを覚えた対応ができるようになってきている。	A
5 開かれ信頼される学校づくり	・学校の教育方針や教育活動の状況など、保護者や地域への情報発信について	・学校だよりやホームページを活用して、教育方針や活動の様子をできる限り発信するように努めた。特に、ホームページの「学校日記」の更新については、昨年度以上に回数を増やし、児童の活動の様子を伝えることができた。学校だよりでは、保護者だけでなく、児童や地域の方のアンケートについても掲載し、より客観性のある学校評価をお知らせすることができた。	B
	・地域と連携した学校づくりについて	・学校運営協議会を年間で8回開催し、委員の方々からご意見を伺い、教育活動に生かしてきた。また、地域防災訓練や健康フェスティバルにできるだけ多くの教職員が参加するように呼び掛け、地域との連携を深めることができた。	B
	・教職員の服務について	・毎月の職員会議で校長から講話を行った。また、各学期末の服務事故防止研修では、事例を活用し、日常の教育活動における自身の取組を振り返ったり、適切な対応についてグループ協議を行ったりすることで、服務の厳正について意識を高めた。	B

## II 次年度以降の課題と対応策

課 題	対 応 策
<p>「考える子」 主体的に、意欲をもって学ぶ子（本年度重点目標）を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科の「話す・聞く」学習と各教科で対話的な活動を通して児童のコミュニケーション能力を高め、自分の気持ちや考えを適切に表現できる児童を育成する。</li> <li>・「短い時間を活用した教科指導」や「美山チャレンジタイム」などを活用して、基礎的・基本的な知識と技能の定着を図る。</li> <li>・調べ学習や発表活動において学習用端末を活用し、情報活用能力やプレゼンテーション形式の表現力を育成する。</li> </ul>
<p>「やさしい子」 自他の尊厳を認め、他者と共により良く生きる子を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科 道徳」の時間を中心に、学校生活全般において「相互理解、寛容」や「公正、公平、社会正義」を重点項目とした指導を行い、差別や偏見をなくすとともにいじめの未然防止に努める。</li> <li>・学級活動や学校行事、児童会活動などにおいて、児童一人一人の役割を明確にし、活躍の場を設けることで、自己有用感を育むとともに、話し合いの進め方やよりよい合意形成と意思決定の仕方を指導し、人間関係形成能力を育む。</li> </ul>
<p>「元気な子」 進んで体を鍛え、心身ともに健康な子を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間の外遊びや、持久走旬間や縄跳び月間などの取組を通して、日常的に体を動かす活動を充実させるとともに、学校でできる基本的な生活習慣の向上を図る。</li> <li>・生活のきまり「美山小のやくそく」を元に全学年共通の指導を行うとともに、避難訓練やセーフティ教室、メディアリテラシー教育等、生活指導に関する取組を通して、児童が自律的に行動できる力を高める。</li> </ul>
<p>保護者・地域と連携した教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と連携しながら児童一人一人の実態を把握し、不登校などの兆候を見逃さず早期に対応するとともに、児童にとって居心地の良い学校となるよう環境整備に努める。</li> <li>・地域の自然や人材等を活用して生活科や総合的な学習の時間などを充実させるとともに、「地域運動会」や「地域防災訓練」など地域行事への積極的な参加を促し、保護者や地域と連携して社会に適應する能力・態度を育成する。</li> <li>・学習予定のメモや学習の振り返りなど日々の生活や学習において学習用端末を活用する。また、ミライシードなどのドリル学習を家庭でも取り組ませることで活用の幅を広げる。</li> <li>・中学校進学時の生活が円滑に送れるように、中学校の授業や行事を見学・体験したり、上川口小学校と合同で校外学習やレクリエーションに取り組んだりする。</li> </ul>